

1月のほけんだより

—特別号—

おうちの人といっしょに
よみましょう。

花園小学校ほけんしつ 2023. 1. 25

学校保健委員会

いのちの教室

を行いました。

1月20日 3・4校時に、小さいいのちのドア
いのち語り隊 佐治 賀久美 先生、北川 涼子 先生を講師に
迎え、5年生にいのちの教室を行いました。18名の保護者の方
が参加してくださり、PTA文化保体部の方々にはたくさんお手
伝いしていただきありがとうございました。子どもたちは真剣に
先生の話聞き、代表者による妊婦体験・新生児人形の抱っこ
体験をしました。いのちの尊さや小さな命を守るためにたくさんの人がかかわっていること
を感じ、生まれてきたことへの喜びや命のバトンを受け取ったのだという思いをもつ大切な時間とな
りました。



●プライベートゾーン（水着でかくれる場所）

＝いのちに関係する場所だから大切にしよう。

- ・清潔にしておく。自分以外の人に簡単に見せない・さわらせない。
- ・命が危ないと感じるときは、大声をだして、逃げよう。
- ・性に関する言葉・写真・自分の情報を大切にすること。
- ・安心できる場所・人・時間を選んで過ごそう。
- ・困った時や悩むことがあれば、信頼できる人に相談しよう。

●いのちを大切に生きること

- ① 毎日を大切に過ごすこと。
- ② いのちが喜ぶことをしよう。
- ③ 安心できる人・場所・時間ですごそう。
- ④ 「あたりまえ」を「ありがとう」に変えてみよう。



わたしも あなたも 大切ないのち。すべての命を大切に。
一生懸命生まれてきたいのち。違いを認めて、助け合って。
人と人との出会いを大切に。

—妊婦体験—

約10kgある妊婦ジャケットをつけて、しゃがんだり、
寝たり、起きたりしました。

—新生児人形抱っこ体験—

約3kgの新生児人形を抱っこしました。まだ首がすわって
いないので、グラグラする首を上手に支えて抱っこできていま
した。「今は人形を抱っこしているけど、本物だったら、泣いたり
して、大変だろうな」「(妹を抱っこしていたから)懐かしい」と
いう感想がありました。

お腹が大きくて、妊婦のお母さん
はこんなに大変だったのか～



〈 5年生の感想（一部抜粋） 〉

- ・いのちの教室の話聞いて、命はとても大事で、ぼくたちはいろいろな人に応援されている
いろいろな人に支えられて生まれてきたのだとわかりました。ぼくは、赤ちゃんを産むことは
ないけれど、赤ちゃんを産むことの大変さは今日の授業でよくわかりました。
- ・たくさんの人に支えられて生れてきた赤ちゃんは、周りの人を幸せにさせられる力を持
っていることを知ってすごいと思いました。
- ・私は妊婦体験をして、すごく大変だと思いました。すごく重かったし、落ちた物などをと
る時や掃除、寝る時、立つ時、普通だったらすぐ立てるけど、赤ちゃんがいる人はむずかしい
ので大変だと思いました。
- ・今日、いのちについて学んで、たった一人の命がこんなにも大切だということを改めて知
りました。今は、世界中にたくさんの人がいることが普通だと思っていたけど、その一人一人
がたくさんの人に支えられて一生懸命生きてきたことに驚きました。
- ・ぼくは、命の教室を学んでいろいろなことを学びました。『ぼくは木』のように、自分
だけの個性や自分だけが出来る事にどんどん挑戦したいと思いました。

〈 保護者の方からの感想（一部抜粋） 〉

- ・妊婦体験や抱っこ体験で、子どもたちが実際の重みを感じたことでより母親の大変さを
わかってくれたようでうれしかったです。
- ・感動しました。いのちの大切さを子どもに知ってもらえるいい機会だと思います。
- ・講師の方の話がとてもやさしく、子どもにもわかりやすくて良かったです。
家ではこういう話をすることがないので、これからは話しやすくなったと思います。

